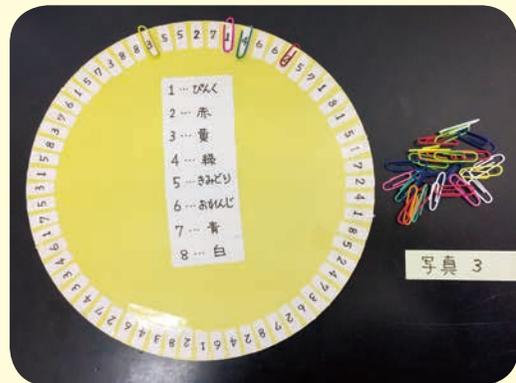




教材2【マッチング・文字・数列】

材料…ホワイトボード小、マグネット、プラスチックケース

教材1の拡大版です。マグネットを大きくしました。同形マッチングだけでなく「上のモデルと同じように置く」「逆数列」「5とび数列」など発展することができます。写真にはありませんが、イラストや色のマッチング教材もあります。ハードケースは扱いやすく、ひざの上に広げて外出先でも出来ます。



教材3【マッチング・弁別・ことばの変換】

材料…丸い色紙、色クリップ

難易度が少しアップします。指示を見て～選んで～挟む、という工程が加わります。右の写真は、ひらがなをカタカナに変換するものです。これは第3段階の教材ですが、易しくも難しくもできますね。材料の丸い色紙は固くて丈夫であるだけでなく、くると回して使えます。両手を使わなければ挟めないのもポイントです。

考える力を育てる療育プログラム 作業編②

MT実践！頭を使うオモシロ作業教材

NPO法人コロロの会
生活介護事業所ういんど

はじめまして。NPO法人コロロの会と申します。私たちは、主にコロロ郡山教室 OB の保護者です。コロロを卒業した後、青年期にも療育が必要である、との思いから4年前に法人を立ち上げました。その後、平成29年6月に生活介護事業所「ういんど」をスタートさせました。

と書いてみると順調なようですが、なかなか大変な道のりでした。なにしろ施設長以外はお母さん・お父さんの集まりで、わが子の療育しかしたことのない素人集団。そんなメンバーが書類を作り、支援のための研修を受け、法規を学び、四苦八苦してここまで来ました。その間はコロロの先生方に本当にお世話になりました。

さて、そんな私たちですが一つだけ自信を持ってご紹介できるものがあります。「ういんど」は手作業教材がすごいんです。バリエーション豊かな教材がたくさんあります。その一部をご紹介します。



教材1【色弁別・マッチング・整列】

材料…クーピーの缶、マグネット、色画用紙

小さく切れるマグネットに色画用紙を貼りました。以前のクーピーは缶容器だったので、コンパクトに収まりました。指先の巧緻性も養えます。左側の色マグネットは、使い方を教えなくても感覚的に取り組めます。色文字を作ったり、模様にしったりと思いがけない使い方をする人もいます。



教材 6 【鈴をつける】

材料…鈴、手芸材料の金具、ハードケース

指先の使い方のレパートリーを増やす教材。意外と難しいです。ういんどでは、成人男性の利用者さんが机に並んで作業をしています。このハードケースは、隣の人にはみ出さないで作業をするのにも役立っています。



教材 7 【ストローを使った作業】

材料…ストロー、ヘアピン、下敷き、ハードケース

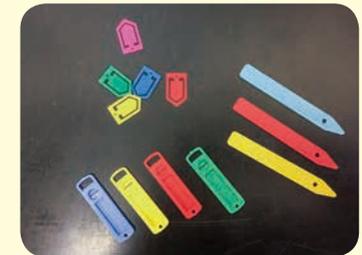
ストローの新しい使い方をご紹介します。ストローにヘアピンを差し込み、それを指示された場所に差します。固く透明な下敷きを使っています。簡単ですので、ぜひマネをしてみてください。ヘアピンは細くて小さいので扱いには十分注意して下さい。



教材 4 【色や形の弁別・ボタンはめ・ホックはめ】

材料…フェルト、ホック、ボタン、布

こちらは少々作るのが大変な布製です。いろいろな弁別をしながらボタンやホックの練習ができます。特にホックは、よく合わせないとハマりません。ですが、はまる時のプチンという感覚は、皆さん気持ちがいいようです。これも両手を使わざるを得ない教材です。



教材 5 【ペグさし】

材料…カラークリップ、鍵ホルダー、園芸用の名札

一般的なペグさしはストローで作ることが多いですね。でもストローだと折れたり口に入れてかじってしまったりがちです。このペグは園芸用で花の名前を書いて鉢にさしておくものを使いました。キーホルダーやクリップなどもカラフルなものが見つかります。何よりも、持ちやすく入れやすいので誰でも使いやすいのです。ペグさし+色弁別も可能。良く目を使います。100円ショップなどで、本来の使い道でないものを探すのも楽しいですよ。



教材 8【ビーズ通し】

材料…カードリング、ビーズ
ひもに通すだけでない、ビーズ通しです。実はリングクリップの開け閉めの練習の方がメインにできます。このクリップは開け閉めにコツがいりますね。続けて何個も練習できてしまう教材です。キラキラしてきれいなビーズは、みんなが惹きつけられ、つい手に取りたくなるもののようです。



教材 9【ボールペン組み立て】

材料…ボールペン、適当な容器
おなじみのボールペン組み立てですが、部品の置く場所を示すだけで仕分けもプラスされます。同時に、きちんと揃えたい・並べたいという気持ちから、皆さんとても几帳面に並べています。

いかがでしたか？どの教材も、身近な材料ですぐに作れるものばかりです。ぜひ教材づくりのヒントにしてみてください。最後に、教材を作る際に工夫していることや気を付けていることをお伝えします。

①手軽に作れること

材料は身の回りにある物や100円ショップの物がほとんどです。うまく使えなかったら惜しげもなくお蔵入りできますね。木や布で作り込まなくても大丈夫ですよ。

②材質に留意

教材4の布以外は、みんな硬い材質です。また、余計なイラストや飾りはつけていません。視覚・触覚刺激となるものをできる限り落として、何をすべきかわかりやすくしています。

③「つい…したくなってしまう」教材

並べる、揃える、はめ込む等々、みんなやりたがりますよね。色もきれいな原色やキラキラしたものが目を引きます。透明も案外いけます。ただ、気軽に作るのはいいいのですが、角はキッチリ揃えて、隙間なく収まるように作ってあげてください。

④支援する側も、やわらか頭で！

せっかく作った教材を使わせたい！という気持ちはわかります。でも目的は、目と頭を使わせることです。惰性で手を動かしていませんか？作業のスピードに注意してみましょ。超速でもゆっくり過ぎでもいけません。作業の途中でやめられますか？違う使い方もできますか？教材5のペグを、時にはひも通しとして使うこともあります。最初に教材1を作ったら細かすぎてイライラしてしまった方がいました。そこで、サイズを大きくした教材2を作りました。分解した部品（ボールペンやビーズ）をどこに置いたらいいか迷っていることから教材8や9ができました。作って→使って→カスタマイズすることで、より使い勝手の良い教材になります。皆さん、お子さんに合った教材を楽しく考えてみましょう。